

令和5年度授業改善推進プラン

- (取組内容)
- ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

音楽科

★教科・観点について

学力向上のための調査・期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。 <○成果 ▲課題>

観点	1 学期			2 学期			3 学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析（授業改善・評価）	具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
知識・技能	1年	○歌唱や器楽に必要な呼吸の基本を身に付けることができた。 ▲身に付けた呼吸の基本、発声や歌唱などに生かせていない。	表現活動の中で、生徒同士が対話する場面を設定し、考えを深めながら表現の創意工夫をしたり、知覚と感受を関わらせた鑑賞活動ができるようにする。また、個々で歌唱の練習ができるようICTを活用する。	1年	○響きのある声を意識した発声法が少しずつ身に付いてきているが、全体としてふさわしい歌唱表現については課題がある。	合唱コンクールに向けた練習の中で、それぞれが正しい発声を意識し、技能を身に付けながら主体的に合唱練習に取り組むことができていた。	女声を中心に元気よく歌う雰囲気があり、さらに正しい発声を意識した歌唱表現ができていた。
	2年	○歌唱や器楽に必要な呼吸の基本を身に付けることができ、ふさわしい歌唱表現について考えることができた。 ▲一部の生徒が身に付けた呼吸の基本や発声を歌唱などに生かせていない。		2年	○響きのある声を意識した発声法が身に付いてきており、ふさわしい歌唱表現を考えながら合唱できる生徒が増えている。		響きのある声や、それを支える呼吸、姿勢など基本的な歌唱の技能が身に付いてきている。特に女声の表現力や声量の伸長を図り、調和のとれた合唱や表現活動ができるようにする。
	3年	○歌唱や器楽に必要な呼吸の基本を身に付けることができ、ペアで話し合いながら歌唱表現の工夫ができた。 ▲身に付けた呼吸の基本、発声や歌唱などに生かせていない。		3年	○響きのある声を意識した発声法が身に付いてきており、ふさわしい歌唱表現を考えながら合唱できる生徒が増えている。		他者と意見や考えを交わしながら表現を工夫することができていた。
思考・判断・表現	1年	○自分がどのように感じたかを言葉で表現することができている。 ▲知覚したことと感受したことの関わりについて考えられていない。	知覚したことと感受したことを生徒が明確に分けられるように、ワークシートの記入欄や発問を工夫する。また生徒同士の対話活動を取り入れたり、音楽的な要素の例示を行ったりして、表現活動に結び付けられるようにしていく。	1年	○音楽から作曲者の意図を読み取り、表現を創意工夫することができた。	表現の元となる音楽的な要素を楽譜から読み取る力が伸びたことで、表現の工夫や、その意図を考えたりする活動ができた。今後も、音楽用語の意味や読み方も反復練習で定着を図り、自ら考えて表現の工夫ができるよう、授業展開を工夫するとともに、発表などで個々が表現する場面を設定していく。	音楽から作曲者の意図を読み取り、表現を創意工夫することができた。
	2年	○自分がどのように感じたかを言葉で表現することができた。 ▲知覚したことと感受したことの関わりについて考えることができるようになってきたが、表現に至っていない。		2年	○音楽から作曲者の意図を読み取り、表現を創意工夫することができた。		音楽から作曲者の意図を読み取り、主体的に表現を創意工夫することができた。
	3年	○自分がどのように感じたかを言葉で表現することができている。 ▲知覚したことと感受したことの関わりについて考えられているが、表現に結び付いていない。		3年	○音楽から作曲者の意図を読み取り、思いや意図をもって表現を創意工夫できた。		音楽から作曲者の意図を読み取り、表現を創意工夫しながら協力して表現活動に取り組むことができた。
主体的に学習に取り組む態度	1年	○楽譜作成ソフトFlatを使って音符や音名などの基礎知識の学習やができた。 ▲音符や記号の読み方や意味などの基礎的な知識の習得が不足していた。	授業の振り返りシートなどで、生徒が自らの学習を振り返り、見直しをもって取り組むことができるようにする。またそれを機に、必要な知識・技能を習得できるよう授業展開を工夫する。	1年	○歌唱活動に前向きに取り組むことができた。 ▲振り返りの定着に課題がある。	表現や鑑賞の活動をバランスよく行うことができた。合唱や鑑賞等の音楽活動を通し、思いや意図をもって音楽表現をしていく姿勢や心を育てていく。各学年の実態に合わせて課題や目標を設定し、表現することへの楽しみを作り出し、自信をもって表現できるようにしていく。	歌唱活動や鑑賞の活動に意欲的に取り組むことができた。
	2年	○歌唱活動を十分行うことができ、歌唱表現を深める活動ができた。 ▲音符や記号の読み方や意味などの基礎的な知識の習得が不足していた。		2年	○歌唱や音楽表現の創意工夫を考える活動に意欲的に取り組めた。 ▲振り返りの定着に課題がある。		歌唱や音楽表現の創意工夫を考える活動に意欲的に取り組むことができた。
	3年	○歌唱活動を十分行うことができ、ペアで表現活動を行うことで対話を通して歌唱表現を深める活動ができた。 ▲音符や記号の読み方や意味などの基礎的な知識の習得が不足している。表現・発表活動に取り組めない生徒が一部いた。		3年	○歌唱活動や音楽表現の創意工夫を考える活動に仲間と協働して主体的に取り組むことができた。		歌唱活動や音楽表現の創意工夫を考える活動に仲間と協働して主体的に取り組むことができた。
研修課題（キャリア教育に関連した教科としての取組）	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法		1 学期の成果と課題	1 学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2 学期までの成果と課題	1 年間の成果と今後の課題	
・生徒の主体性を育む授業 ・地域や小中との連携を生かした取組	・歌唱練習を生徒自ら進められるようICTを活用する。 ・地域の人材を活用し、郷土の伝統文化への理解を深める。		・ICT機器や音源を活用して、自ら練習する生徒が増えた。 ・地域人材を活用した八丈太鼓の授業を行い、生徒の郷土の伝統文化への理解を深めることができた。	ワークシート等のICT化を進め、それらを活用した生徒の主体的学習を工夫できた。また授業展開を工夫することで、生徒が主体的に考えて協働して学習する場面の設定ができた。	振り返りにって自分の達成できていることや課題をしっかりと把握して学習を調整することができる生徒の育成が課題である。	歌唱、器楽、鑑賞、創作それぞれの活動をバランスよく行うことができた。器楽については、リコーダーの進捗を生徒が自ら進めていけるように工夫が必要である。	